

染色体導入マウスによる血圧制御領域の同定

(研究期間：平成 13 年～14 年)

任期付研究員：谷本 啓司 (筑波大学)

総 評 (優れた成果が得られた研究であった)

本研究は、生体において血圧の低下に対する補償機構が存在し、レニン遺伝子の転写がその主要なターゲットとなっていると考え、レニン遺伝子の発現制御機構の解明に向けて、トランスジェニック・マウスの系を用いて血圧応答性領域を見出すことを目指すものである。

当初 4 年間にわたる研究計画であったが、3 年目に任期付研究員が所属機関における任期を付さないポストに昇格したことに伴い、任期中における研究を支援するという本プログラムによる支援は結果的に 1 年半のみとなったが、現在も本研究員により研究が継続されているというものである。

このような状況下において、得られた Tg マウスの解析結果によって初めて評価が可能になるという本研究テーマの特性を踏まえ、現時点では評価に窮するところもあるが、動物個体における血圧制御機構の解明という難しいテーマに挑戦しており、意欲的かつ緻密に設計された研究計画に基づき、必要な Tg マウス作成にも成功しているなど、当初の計画に沿って順調に研究が進捗していると判断され、現時点での目標としては概ね達成されているものと評価できる。

また、今後興味深い知見が得られることが期待され、科学的・技術的な価値は概ね高いと判断されるが、現時点では明確な成果がほとんど出ていないことから、波及効果はある程度期待できると評価せざるを得ない。さらに、時間的な制約もあり、現時点では情報発信は全く行われていないが、今後、所期の目標達成に向けて研究を展開し、積極的に情報発信を行うことを期待する。

他方、本任期付研究員が所属する機関の研究センターにおいては、任期付きポストは研究専従で教育の義務がないという状況にあり、講座制の枠組み内での研究実施という状況ではあったものの、所属機関の支援もあって、本人の独創性に基づき順調に研究が進捗していると判断でき、十分自立して研究が行われていたものと評価できる。

さらに、研究者としての資質や能力が適切に評価され、任期付研究員が所属機関における任期を付さないポストに昇格した点や、所属機関における任期制の普及状況を踏まえ、任期制の定着への効果は十分あったものと評価できる。また、任期付研究員に対する所属機関の支援については、最先端の科学に直接触れる機会の提供など、若手研究者が自由な発想で研究に専念できるよう十分な支援が行われたものと評価できる。

以上により、これまでの研究の進捗状況などから総合的に判断すると、本研究の今後の更なる発展を期待しつつ、優れた成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価：b >

評価結果

総合 評価	目標 達成度	研究成果				研究 計画	研究者 の自立性	任期制の定 着への効果	所属機関 の支援
		科学的・技術的価値	科学的・技術的波及効果	社会的・経済的波及効果	情報発信				
b	b	b	c	c	d	a	a	a	a

